

授業デザイン FIRST STEP ―小学校学校保健―

1 養護教諭が学級活動等の授業へ参加することの意義

学級活動に限らず、養護教諭が授業へ参加することの意義としては、次のようなことがあります。

- 1 児童の健康実態や生活実態を授業へ反映させることができる。
- 2 授業中の児童の姿を知ることができる。
- 3 ※1「ガイダンス」から※2「カウンセリング」への架け橋となること



※1「ガイダンス」…主に集団の場面で必要な指導や援助を行うこと。
※2「カウンセリング」…個々の児童が抱える課題を受け止めながら、その解決に向けて、主に個別の会話・面談や言葉掛けを通して指導や援助を行うこと。

2 健康課題解決のための保健教育の進め方の手順と各段階のポイント

手順に沿って、各段階のポイントを押さえているか□に✓を付けて確認しましょう。

授業前の取組	① 教科等横断的な視点で保健教育全体について確認します。 □ 保健教育について、体育科保健領域や特別活動、関連する教科等の内容を確認している。 □ 幅広い保健教育のニーズに対応できるように、常時、健康や保健に関する情報を収集している。
授業	① 授業する学年、学級が決まったら担任との打合せを行います。 □ 担任や他の教職員との情報交換から、児童の実態を把握している。 □ 健康診断結果や、保健室利用状況、保健調査等から児童の健康課題を把握している。 □ 児童が自分の生活に結び付けて考えることができるように、事前アンケートの結果を踏まえ、資料や教材を工夫して作成している。 □ 担任と養護教諭それぞれの特性を生かした指導分担を決め、授業の計画を立てている。 ② 授業では、養護教諭の専門性を生かして、事前に決めた指導分担を基に児童の健康実態や生活実態を授業に反映させます。 □ 授業の「導入」の場面では、事前アンケートの結果等の児童の実態を提示し、「めあて」につなげている。 □ 養護教諭の専門性を生かした資料や教材を提示している。 □ ペアやグループなどで、考えや意見などを「話し合う」場面では、活動が止まっている児童に個別に声を掛け、活動を促す。 □ 「まとめ」の場面では、養護教諭や保健室の役割を伝え、授業後の個別支援や保健指導につなげる。
授業後の取組	③ 授業を振り返って、授業後の児童の様子について、担任と情報交換を行います。 □ 授業後に、担任と情報交換を行い、指導内容の評価と改善を行っている。 ④ 授業の内容を児童や保護者へ周知し、実践意欲の継続化を図ります。 □ 授業の内容を、保護者に伝える取組をしている。

上記の手順と留意点を踏まえた授業デザインの具体(例)を次に示します。



授業デザインの具体（第4学年 学級活動(2)「よりよい生活」を例に）

授業前の取組

① 教科等横断的な視点で保健教育全体について確認します。

学習指導要領解説 特別活動編の内容(学級活動の2「内容」) p.46～

- 2 内容 (2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全
ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成
現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。



最近、4年生の体育科保健領域の授業で、思春期の体と心の変化について学習をしたと聞いたから、関連付けて説明をすると自分と結び付けて考えやすいかもしれない。

① 授業する学年、学級が決まったら担任との打合せを行います。

・担任との情報交換を行い、資料や教材を決めます。



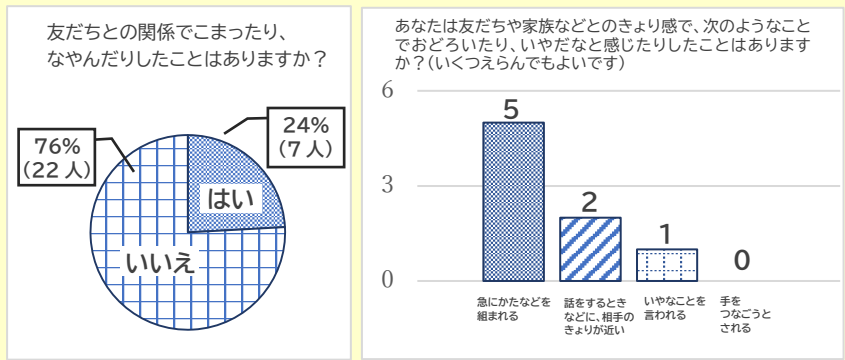
最近、子供たちが人と関わるときの距離感が気になるのよね。友達同士でずっとくっついていたり、先生に話し掛けるときに、距離感が近かったりするの…。

保健室来室者からは、友達との関係に悩んでいると聞くこともあります。自分と他の人との適切な距離感について学び、自分や他の人の体や心を大切にできるようになるとよいですね。



・事前アンケートの結果から、児童の実態を把握します。

事前アンケートを使って児童の悩みや自分と他の人との適切な距離感についての認識を把握します。



自分と他の人との距離感について、驚いたり、嫌だと感じたりしたことがない児童も多いな。悩んでいる人がいることに気付くことができるといいな。

自分と他の人との適切な距離感について学ぶことで、他の人とのよりよい関係につながっていくとよいですね。



授業

- ② 授業では、養護教諭の職務の特質と専門性を生かして、事前に決めた指導分担を基に児童の健康実態や生活実態を授業に反映させます。

・授業の「導入」の場面では、事前アンケートの結果等の児童の実態を提示し、「めあて」につなげる。

本時のねらい

自分と他の人との距離感について現状を振り返り、一人一人に適切な距離感があることを知ることで、自分や他の人の体と心を大切にするために、これから気を付けたいことを決め、実践することができるようにする。

本時のめあて

自分と他の人とのてきちなきより感について考え、これから気を付けたいことを決めよう！

・養護教諭の専門性を生かした説明や助言を行う。

【専門性を生かした説明と助言】

適切な距離感とは人によって異なります。「体の距離感」というのは、「自分の体は自分のものだから、自分と他の人との距離は自分で決めてよい」というものです。親しくても近すぎると嫌だと感じることもあるかもしれません。そのようなときは離れてもよいです。相手の気持ちを考えて伝えられるとよいですね。

大好きな友達が話をするとき、きより感が近くて、少し落ち着かないと思っていました。それは、てきちなきより感が人によって、ちがうからなんですね。

そうですね。では、自分や他の人の体と心を大切にするために、実際にはどうしたらよいか、みんなで考えていきましょう。

できごと「ろうかを歩いていたら、友達が急にかたを組んできたので、おどろいて、少しいやだなと思いました。このようなとき、あなたは何と言いますか。」

「かたを組むのをやめてよ」と言います。

自分の気持ちを伝えられているところがよいですね。それでは、相手の立場になって考えてみるとどうでしょうか？もっとよい方法はありませんか？

「びっくりするから、やめてほしいな」と言います。

理由を付け加えていて、よいですね。伝え方も優しい言葉遣いになっていますね。それでは、ほかの伝え方も考えていきましょう。

・「終末」の場面では、養護教諭の役割を伝え、授業後の個別支援や保健指導につなげる。

自分と他の人との適切な距離感が守られないときは、一人で悩まないで安心できる大人に相談してくださいね。保健室に相談に行くという方法もあります。何か困ったことや悩みがあるときはお話に来てくださいね。保健室には自分と他の人との適切な距離感についての掲示物を貼っています。ぜひ、見に来てください。

みなさんが決めたこれから気を付けたいことを、実践してみてくださいね。1 か月経った頃、振り返りをしたいと思います。

授業後の取組

- ③ 授業を振り返って、授業後の児童の様子について、担任と情報交換を行います。

・授業後に、担任と情報交換を行い、指導内容の評価と改善を行う。

授業後の児童の様子はいかがでしょうか。保健室来室者からは、友達との適切な距離感について相談があったり、友達との適切な距離感について客観的に考えている内容について話をしてくれたりしています。

教室では、友達同士でずっとくっついていることが少なくなったように思います。また、相手の気持ちを考えながら自分の気持ちを伝えている会話が聞こえてきます。

- ④ 授業の内容を児童や保護者へ周知し、実践意欲の継続化を図ります。

授業後は、保健室に適切な距離感に関する掲示をして、来室した児童が誰でも自分と他の人との適切な距離感について考えたり、授業内容を振り返ったりできるようにします。また、学級通信や保健便りに授業の様子を記載することで、授業での取組を保護者に伝え、家庭との連携を図ることができます。

掲示板等を利用して児童へ

保健室前の掲示板などに、適切な距離感について掲示をして、児童が興味をもつことができるようにします。

授業後には、4年生がほかの学年の児童に教える姿も期待できます。



学級通信や保健便り等を利用して保護者へ

保護者の方へ

先日、4年1組の学級活動「自分と他の人とのてきちなきより感について考え、これから気を付けたいことを決めよう！」の授業を担当の先生と一緒にに行いました。授業の中で、体と心を大切にするための方法の1つとして勉強した自分と他の人との適切な距離感について、少し紹介をします。

距離感には、「体の距離感」と「心の距離感」の2つがあります。学級通信では「体の距離感」について紹介をします。「体の距離感」というのは「自分の体は自分のものだから、自分と他の人との距離は自分で決めてよい」というものです。

子供たちには、「廊下を歩いていたら、いつも遊んでいる友達が急に肩を組んできました。私は、驚いて、少し嫌だなと思いました。これで3回目なので、やめてほしいと思っています。あなただったら、肩を組んできた友達に何と言いますか」というできごとについて考えてもらいました。子供たちからは、「びっくりするからやめてほしいな」、「もう少し距離感を考えて」などの意見が出てきました。子供たちと話し合うと、「相手の気持ちを考えながら、自分の気持ちを伝える」という意見にまとまりました。

適切な距離感というものは、相手や状況によって変わってくるものだと思います。その中で、この授業が子供たちにとって自分や他の人の体と心を大切にするための、よりよい言動を選択できる手助けになればと思います。

ぜひ、御家庭でも自分と他の人との適切な距離感について、お子様と話をしていただけると有り難いです。

3 授業に参加するときの保健室のバックアップ体制について

授業に参加する際には、事前に校内の共通理解を図り、養護教諭不在時の保健室の利用や緊急時の対応について全職員で確認し、バックアップ体制を整えておくことが大切です。

- ・管理職へ … 保健室不在の日時を事前に報告する。
授業の学年・内容についても報告する。
保健室登校児童がいる場合、職員間で情報を共有して対応する。
- ・教職員へ … 行事黒板等で職員へ周知する。
- ・児童へ … 保健室前等に掲示する。
個別対応中の児童がいる場合、直接伝える。



学習指導プラン

小学校特別活動第4学年

題材名 自分や他の人の体と心を大切にする

内容のまとめり

〔学級活動〕

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

1 本題材で扱う学習指導要領の内容

学級活動

(2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全

ウ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動する。

2 学級活動(2)で育成を目指す資質・能力

- 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全といった、自己の生活上の課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解するとともに、そのために必要な知識や行動の仕方を身に付けるようにする。
- 自己の生活上の課題に気づき、多様な意見を基に、自らの解決方法を意思決定することができるようにする。
- 自己の生活をよりよくするために、他者と協働して自己の生活上の課題の解決に向けて粘り強く取り組んだり、他者を尊重してよりよい人間関係を形成しようとしたりする態度を養う。

3 第3学年及び第4学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、よりよい生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題に気づき、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、意欲的に課題解決に取り組む、他者と協力し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

4 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
自分と他の人との距離感について振り返り、人間関係の悩みや適切な距離感について事前アンケートに記入する。 (1人1台端末を活用することも考えられる。)	・人間関係の悩みや適切な距離感について調査し、表やグラフにまとめる。 ・これまでの自分と他の人との距離感を振り返る時間を設け、課題への意識を高められるようにする。	◎自分と他の人との距離感を進んで振り返ろうとしている。 【主体的態度】 〈アンケート〉

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

自分や他の人の体と心を大切にするために、一人一人に適切な距離感があることを知ることで、これから気を付けたいことを決め、実践することができるようにする。

(2) 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点		◎目指す児童の姿 【観点】 〈評価方法〉
		T 1（学級担任）	T 2（養護教諭）	
導入 つかむ	1 自分と他の人との距離感について、自分の現状を知る。 (5分)	・養護教諭の職務の特性や専門性を生かし、本時の授業には養護教諭が参加することを伝える。 ・学級担任から見た友達との関わり方についての児童の現状や様子を振り返り、伝える。	・事前アンケートの結果を提示し自分と他の人との距離感について悩んでいる人がいること等、自分たちの現状に着目できるようにする。 ・事前アンケートの結果を用いることで、一人一人が自分の問題として捉えることができるようにする。 ・第4学年の体育科保健領域の学習内容である思春期について、体と心の変化に伴い、悩みや不安が出てくることを確認し、本時の学習につなげることができるようにする。	
	本時のめあて：自分と他の人とのてききなきより感について考え、これから気を付けたいことを決めよう！			
展開 さぐる	2 自分と他の人との適切な距離感について考える。 (4分)	・ロールプレイを基に友達と意見を交流し、自分と他の人との適切な距離感について考えるように促す。	・自分と他の人との適切な距離感について考えることができるように、T 1とT 2でロールプレイを行うことで、人によって適切な距離感に違いがあることを気付くことができるようにする。 例) 〈先生に話し掛ける場面〉 T 2：「A先生（T 1）！話したいことがあるのですが！」 T 1：「何でしょう？」 ①1 m離れている場合 ②50 c m離れている場合 →〔児童の反応〕 「①はちょうどいいと思う。」 「②は近いんじゃない。」 「②も別にいいと思うけど。」	
	3 自分と他の人との適切な距離感について知る。 (5分)	・事前アンケートの結果やT 1、T 2の距離感についての説明を踏まえて、自分と他の人との適切な距離感について自分のことを想定しながら話を聞くように伝える。	・自分と他の人との距離感には、「体の距離感」と「心の距離感」の二つがあることを伝える。 ・「体の距離感」とは、「自分の体は自分のものだから、自分と他の人との適切な距離感自分ですべて決めてよい」ということを説明する。 ・親しくても近すぎて嫌だと思うときは、離れてもよいこと、自分に対する友達の様子が気になるときは、自分と友達の「体の距離感」を見直してみる大切であることを説明する。 ・「心の距離感」とは、「自分の気持ちや考え方は自分のものだから、どのような気持ちを持ち、どのような考え方をするかは自分で決めてよい」ということを説明する。 ・説明の際は、掲示物等を活用しながら行う。	

見つける

4 2つのできごとにおいて、自分と他の人との適切な距離感が守られないときにどうしたらよいか話し合い、共有する。 (25分)	・学級全体できごと1「体の距離感」について話し合う時間を取り、自分と他の人との適切な距離感が守られないときにどう伝えればよいか考えるように促す。	・事前アンケートの結果を再度伝えることで、自分と他の人との適切な距離感について自分や学級の現状を想定しながら考えたり、友達の意見を聞いたりすることができるようにする。
	○できごと1「体の距離感」 ろうかを歩いていたら、いつも遊んでいる友達が急にかたを組んできました。私は、おどろいて、少しいやだなと思いました。これで3回目なので、やめてほしいと思っています。あなただったら、かたを組んできた友達に何と言いますか。	
	*選択肢 ・「かたを組むのをやめて。」と言う。 ・「あまりべたべたされるのが好きじゃないんだ。」と言う。 ・「やめてくれないなら、先生に言うよ。」と言う。 ・「びっくりするからやめてほしいな。」と言う。	
	・児童が考えを整理しやすくするために、意見を板書する。 ・できごと2「心の距離感」について、まず、個人でワークシートに記入する時間を取り、その後、グループで話し合うように伝える。	・意見が出ないときは、選択肢を提示する。児童から出た意見の中に、選択肢の内容がなかったときは、例として紹介をする。 ・自分が相手の立場になったら、どう思うかを問い掛けることで、相手の気持ちも考えることができるようにする。 ・できごと1「体の距離感」について児童が考えた意見に触れながら、適切な言葉や行動について板書する。 ・できごと1「体の距離感」について考えた活動を参考にして、できごと2「心の距離感」について個人で考えるように伝える。
	○できごと2「心の距離感」 いつも遊んでいる友達に「放課後、公園で遊ぼう。」とさそわれました。今日はもともと家で本を読みたいと思っていました。いつもは友達のさそいをゆう先することが多いので、今日は自分の気持ちを大切にしたいと思っています。あなただったら、さそってきた友達に何と言いますか。	
	・グループで出した意見を学級全体で共有する。	・机間指導を行い、ワークシートに記入することができない児童に、板書しているできごと1「体の距離感」のまとめを参考にするように伝えたり、自分だったら何と言われたら納得できると思うか尋ねたりする。 ・できごと1「体の距離感」とできごと2「心の距離感」の共有した意見から、学級の意見として、自分と他の人との適切な距離感が守られないときの相手へのよりよい伝え方について板書して、まとめる。

◎自分と他の人との適切な距離感が守られないときにどのようにしたらよいか考えたり、話し合ったりしている。

終末 決める	5 本時の学習を振り返り、これから気を付けたいことを決める。 (6分)	・自分や他の人の体と心を大切にするために、これから気を付けたいことを決め、ワークシートに記入するように伝える。 ・意思決定したことを意識して、今後、生活してほしいことを伝える。 ・1か月後に、振り返りを行うことを伝える。	・机間指導を行い、これから気を付けたいことを決めることができない児童に、板書に書かれた2つのできごとの共有した意見やまとめを参考にワークシートに記入するように伝える。また、自分と他の人との適切な距離感について、これまでの自分を振り返り、これから気を付けたいことを決め、ワークシートに記入するように伝える。 ・困ったり、悩んだりしたときは大人に相談してよいことを伝える。 ・養護教諭や保健室の役割を伝え、誰でも来室してよいことを伝える。心身の健康について心配なことがあるときや今回の学んだことの実践でうまくいかなかったとき等、養護教諭等に相談してよいことを伝える。	◎これから気を付けたいことを決めている。 【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉
-------------------	--	--	---	--

6 本時の評価規準と判定基準

◎目指す児童の姿【観点】 〈評価方法〉	判断のポイントと指導の手立て
◎自分の課題を踏まえ、一人一人に適切な距離感があることを知ること、自分や他の人の体や心を大切にするために、これから気を付けたいことを決めることができる。 【思考・判断・表現】 〈観察・ワークシート〉	「十分満足できる」状況（A）と判断するポイント ○自分の課題を踏まえ、一人一人に適切な距離感があることを知ること、自分や他の人の体や心を大切にするために、これから気を付けたいことを具体的に決めることができる。 「努力を要する」状況（C）と判断される児童への指導の手立て ●板書に書かれた、学級の意見として、自分と他の人との適切な距離感が守られないときの相手へのよりよい伝え方についてのまとめを参考にワークシートに記入するように伝える。

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿【観点】〈評価方法〉
意思決定したこれから気を付けたいことを意識して実践する。	・帰りの会などで学級担任から声掛けを行い、実践への意識付けとなるようにする。	◎意思決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉
1か月後に、実践を振り返り、互いに努力したことや工夫したことについて話し合うなどして、これからの実践で参考にできるようにする。	・振り返りシートに記入する時間を設け、学習したことを生かすための意識付けとなるようにする。 ・振り返りシートの記入から個別指導につなげる。	◎自分と他の人との適切な距離感について、学んだことを意識し、生かそうとしている。 【主体的態度】 〈観察、振り返りシート〉